

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会

《発行責任者 松谷 敬一》

2023 年
1 月号
No. 25

新年 明けましておめでとうございます

岸和田市図書館友の会 会長 松谷 敬一

令和5年の干支 卯年（みづのとうどし）を迎えました。
皆さま新年明けましておめでとうございます。

昨年も新型コロナウイルスに振り回され、2月で丸3年を迎えます。またロシアのウクライナ侵攻も丸1年を迎えます。

中国との台湾関係や北朝鮮のミサイル実験連発などキナ臭い戦争の匂い漂う一年でした。しかし後半、ワールドカップサッカーで日本中が湧き、世界にその存在を示す盛り上がりを見せました。

我々の活動もコロナ三密に惑わされず市政百周年の図書館まつり盛況や、図書館友の会主催の文学歴史散歩の活況で、右肩上がりの一年で終わることが出来ました。

卯年（みづのとうどし）生まれの人は、もの静かで落ち着いた生活を好む平和主義者で調停する聞き上手との事、良い方向に終息すると確信します。

今までコロナに封印されていた活動も少しずつ緩やかになって来たので、意を強くして、ザ・チームでこの一年頑張りましょう！



『南方熊楠記念館』を訪ねて

楽しかった文学歴史散歩

昨年11月19日に、29名の参加で「南方熊楠記念館」及び京大白浜水族館に行きました。

参加者の感想を紹介します。

【左写真】 記念館の入口付近で記念写真。

◇ 熊楠のすごさを知った 尾崎 けい子

11月9日（水）前夜の皆既月食・天王星食の余韻を残す美しい青空の下、文歴ツアー「南方熊楠記念館」行のバスは出発。車中で資料をいただきビデオ解説を視聴するほどに「熊楠のすごさ」を知る。

昼食後、バスは深い森を進み片側は洋々と海が見える。木々の緑が間近に続き、澄み切った空と海の青が熊楠を育てた環境を象徴するようだ。

（2面に続く）

記念館に入って初めに見るのは「和漢三才図会」の実物と熊楠の写本である。八歳でこれと出会い15歳まで全105巻を筆写したという。その字、絵、図は古びているが熱とエネルギーを感じる。

熊楠は書き写すごとに知る未知の事象に興味津々楽しくてたまらなかったのだろう。その後の彼の生き方を決定づけたと言える。「書くこと」から「理解し記憶する」。そして授業よりも野山を駆け巡り採集したり標本にする。

後に欧米への留学、大英博物館での研究、論文発表など様々な活躍ぶり、また孫文、柳田國男、土宜法龍との交流など幅広く深い生き方が展示されているが、原点は「和漢三才図会」の筆写にあると確信する。後半、「熊楠林中裸像」に目が留まる。明治政府の「神社合祀令」に反対し、自然保護のために奔走した熊楠。世界のあらゆる事象に興味を持ち、自由奔放に研究してきた彼にとって自然の破壊は許せなかった。そして、住民と共に運動を進め、この令は廃止、神島（かしま）は天然記念物に指定された。百年も前に熊楠は自然を護ったのだ。



展望台からの眺望

360度展望できる屋上からの眺めの素晴らしさ、透きとおる海の青と水平線。神島をはじめ周辺の島々の緑と調和し、いつまでも眺めていたい。白い鳥（トンビ）も自由を満喫している。この自然は熊楠とともにある。「南方熊楠」を少しだけ知ったという満足感で記念館をあとにした。

◇ 文学歴史散歩に参加して 阪口 淑子

以前から行きたかった「南方熊楠記念館」だったので、喜び勇んで参加させてもらった。何より申し分のない晴天に恵まれ遠足気分、そしてグリーンバスだったので寄り道した時に探しやすいて助かった。

「とれとれ市場」での海鮮丼はとても美味。支給してくださったクーポン券でカズノコや瓶詰を買い家計に大助かり。「南方熊楠記念館」の資料を作った下だったので、事前勉強もでき身近に感じられた。

京大白浜水族館、久しぶりに水族館に行ったので、童心にかえったようで面白かった。海のすぐ近くだったのでオゾンを一ぱい吸ってとても気持ち良かった。

ご一緒したかった方をお誘いしての参加だったので、ほんとに楽しい小旅行となった。良い企画をしてくださって、ほんとにありがとうございました。



展望台でも学芸員の方が説明

◇ 現地に行ったからこそ… 谷口 富美

とても楽しい文学歴史散歩でした。

翌朝、南方熊楠記念館のパンフレットをゆっくり読んでいて、昭和天皇御製碑の写真と『雨にけふる神島を見て 紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ』の歌に目がとまりました。展示説明を見逃したようです。天皇が熊楠に寄せられたこの歌は、いつ詠まれたものだろうかと気になりました。

<雨にけふる神島を見て>と検索すると「1962年5月昭和天皇が南紀に行幸の折、宿舎から雨に煙る神島を目の当たりにされた。33年前、熊楠の案内で神島に変形菌を探られた日も雨であった。翌年1月1日の新聞に発表されたこのお歌が、その後の熊楠顕彰に大きなはずみとなり、1965年南方熊楠記念館が開館」とありました。南方熊楠略年譜をみると「1930年行幸1周年を記念して自詠自筆の和歌記念碑を建立」とあります。

調べると『一枝もこゝろして吹け沖つ風 わが天皇（すめらぎ）のめてましゝ森そ』でした。熊楠の歌に天皇が返歌されたみたいだ！と心が動きました。30年を経ての力強い相聞歌のようです。

記念館の屋上から眺めた神島の姿と、ど直球のお二人の心情が重なって胸が熱くなりました。熊楠の偉業が認められるきっかけとなり、貴重な資料が整理・活用される記念館が設立されたこと、本物を見抜かれた天皇と“ほんまもん”の熊楠との心の交流に感動しています。

ていねいなレジュメを用意してくださった杉原氏のレクチャー、記念館の展示、学芸員さんの解説、記念館から見える青い海とシュロや椰子の茂る森、シマナンヨウスギと球果などが相まって強く心に残りました。現地に行って、観て聴いて感じたからこそ学びが深まりました。お世話くださった皆様、ありがとうございました。

地名の秘密

②防己(つづら)

漢方の生薬名がルーツ！

和歌山県の太平洋側を走る JR 紀勢本線に周参見(すさみ)という駅がある。

昭和 11 年 (1936) 10 月紀勢西線の駅として開業した古い駅で「特急くろしお」の停車駅でもある。この駅のある町が「すさみ町 (すさみと平仮名)」である。

この町に【防己(つづら)】という珍地名がある。〒649-3152 和歌山県西牟婁郡すさみ町防己(つづら)。江戸幕府の命を受け紀州藩が編纂した地誌『紀伊(きい)続風土記(ぞくふうどき)』に「防己(つづら)村・田畑高 164 石 1 斗 2 合・家数 32 軒・人数 119 人」の記載がある。防己という漢字の意味は己(おのれ)を防ぐという事だが、この地名はいったい、どこからきたものなのか。

防(つづ)己(ら)は佐本川(さもとがわ)の上流域に位置している。この川が葛の蔓(つる)のように折れ曲がった、曲折の多い川で、それに由来するという。道がくねくね折れ曲がっていることを「つづら折れ」などという。では、どうしてツヅラに「防(ぼう)己(い)」という字を当てたのか。ツヅラには「九十九」「九折」「十九」「葛籠」などを当てることが多いが？

オオツヅラフジという植物がある。ツヅラフジ科の落葉蔓性低木で蔓(茎)が大木にからまって伸びる。この植物は、漢方で消炎、鎮痛、血圧降下、抗アレルギーなどの薬として利用されている。薬用にはオオツヅラフジの根と茎が使われ、漢方ではこの生薬名を「防(ぼう)己(い)」という。「防己」という地名は、そこからきているようである。オオツヅラフジ=防己。そこでツヅラに「防己」の字を当てたのだろう。

【資料】 47都道府県地名の謎と歴史kkベストセラーズ。紀伊続風土記 紀州藩編纂。文化3年(1806)~天保10年(1839)に亘り編纂完成(インターネット版参照)

《文責》 文章教室 浦田榮二

楽しかった「詩の教室」の公開講座 「詩って何だろう？」

詩の教室では、12月1日（木）「詩って何だろう？」をテーマに、公開講座を開きました。参加者は13名（友の会員外5名）。

前半は倉橋先生のお話。日本の詩の歴史。明治以降、海外特にフランスの影響を受け、藤村の「若菜集」にみられるように、まだ七五調の文語律の新体詩に始まり、大正期、朔太郎、白秋、中也らの口語自由律詩が展開し、犀星以降、今の現代詩に至るとのこと。現代詩は散文詩もあり、1篇の詩で1冊の本もあれば、1行の詩もある。サンボリズムやシュールレアリズムのお話や、茨木のり子、小野藤三郎の詩や「草束」の詩なども引用し、現代詩は自由で人それぞれでいい、と。

後半は合評会。いつもながら、先生の適格なアドバイス。ユーモアありやや毒舌ありで笑い声のあがる和やかな会となりました。

若い方の参加もあり、皆さん詩を書いているか書いたことがある方達でした。「ものが見方が新鮮で面白かった」「同じく詩を書く人がいて、先生にも見てもらい、これからは続けようと思った」など、嬉しい感想もありました。

図書館友の会の行事案内

どなたでも、ぜひご参加ください。

○ 「文章教室」 公開講座 【参加費】 無料

講演 「魅力ある文章を書くには」 講師 倉橋 健一 氏

日時 3月18日(土)午後1時～4時

場所 岸和田市立図書館(本館) 3階視聴覚室

定員 28名(申し込み先着順) 2月8日(火)より受付開始

図書館(本館)に直接または電話(072-422-2142)でお申し込みを。

○ 「短歌教室」 公開講座 【参加費】 無料

金川宏先生とお仲間の歌人によるトークショー(ゲスト:牛隆佑^{うしりゅうすけ}さん)

日時 3月12日(日)午後1時30分～3時

場所 岸和田市立図書館(本館)3階視聴覚室

定員 30名(申し込み先着順) 2月8日(火)より受付開始

図書館(本館)に直接または電話(072-422-2142)でお申し込みを。

○ 「日根野村絵図」を歩くツアー 【参加費】100円(資料代)

井田寿郎氏(「泉佐野の歴史と今を知る会」事務局長)が案内してくれます。

日時 2月25日(土)

集合 日根野駅(JR阪和線)出札口 9:30 集合(少雨決行)

《行程》JR 日根野駅から徒歩で約4時間。午後3時に日根野駅で解散予定

※ 昼食は各自持参してください。

定員 25人(申し込み先着順) 2月10日(金)より受付開始、2月19日締切り

図書館(本館)に直接または電話(072-422-2142)でお申し込みを。